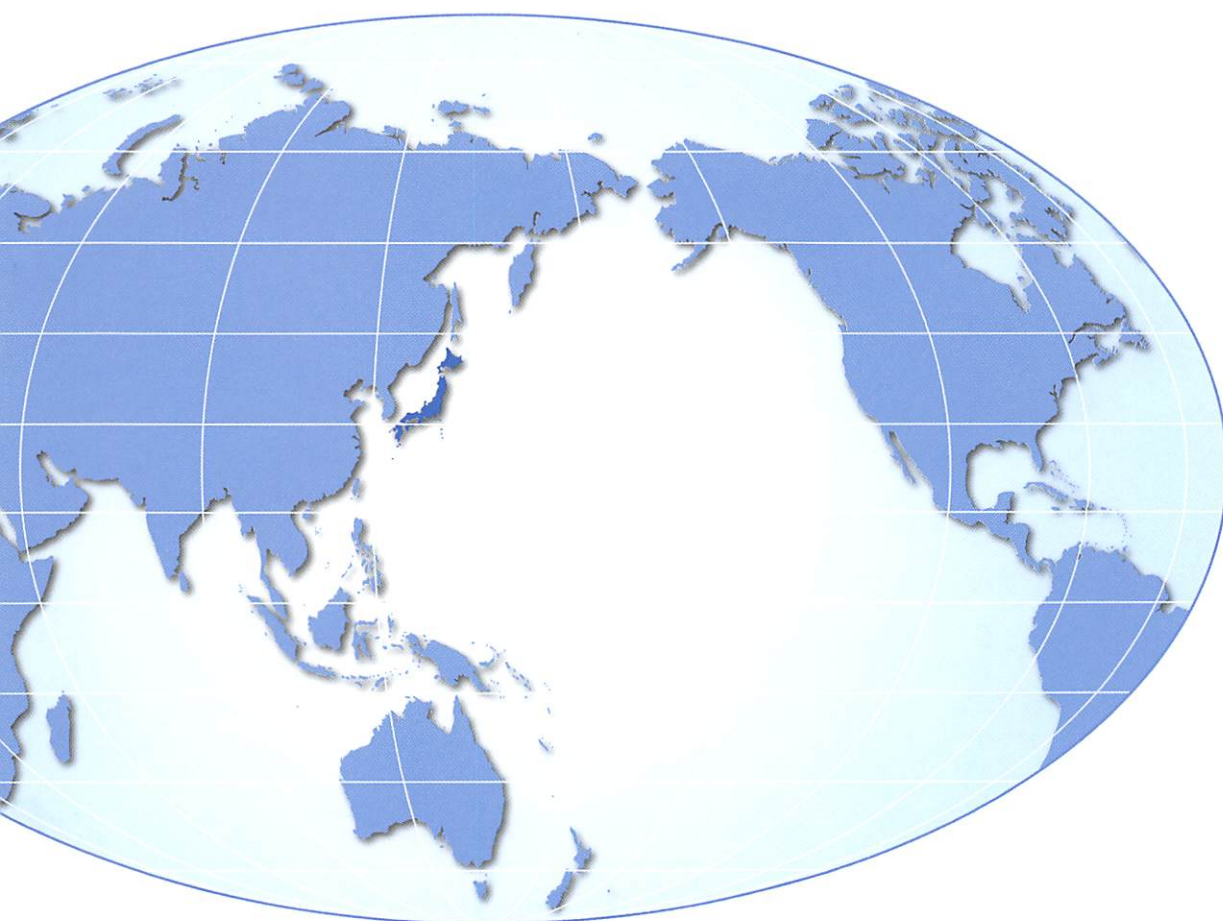




# JAPAN REGION



**III**

Volume 34  
July 2016

## 目 次

### Table of Contents

今期のテーマ	1	Theme
年次大会基調演説（日・英）	2～3	Annual Conference Keynote Address
公式訪問者からのメッセージ	4	Message from ITC Official Visitor
ITC 副会長メッセージ	5	Message from Division IV Vice President
役員・委員会からのメッセージ	6～9	Message from Officers, Committees chairs
日本リージョン役員会年次報告	10	Annual Report
会則決議審議結果	11	Report on the Bylaws
講演	12	Lecture
フォーラム	13	Forum Report
教育セッション報告	14～15	Training Session Report
スピーチコンテスト（日本語）	16	Speech Contest (Japan)
スピーチコンテスト（英語）	17	Speech Contest (English)
ライティングコンテスト	18～19	Writing Contest
大会写真	20～21	Conference Photo Album
次期役員指名委員会／次回年次大会案内	22	Next Term Officers / Next Conference
訪問記	23	Visitors' Reports
カウンスル・クラブのプロジェクト報告	24	Council・Club Project Report
記念会合	25	Council Anniversary Meetings
記念例会	26～27	Club Anniversary Meetings
カウンスル・クラブ情報	28～31	News from Councils & Clubs
追悼の辞	32	Memorial Address
編集後記	32	Message from Editor
ITC 宣誓、リージョン声明文		ITC Pledge & Mission Statement

日本リージョン 第34期テーマ

2015—2016

Japan Region Theme

— Action & Solution —

行動に解決を

ITC Theme

2015—2017

“Leading the way …”

先頭を切って

## 年次大会基調演説

第34期日本リージョン会長  
高木清子



「河の流れは絶えずして、しかも同じ水にあらず」これは鴨長明の方丈記 序の一 に出てくる文で、皆さまもよくご存知のことと思います。ITC という河は、世界に流れる大河です。支流は幾つもの国にあり、時には渇水のために流れは滞り、剥き出しになった河原が草に覆われることもあったでしょう。しかし河は涸れることなく、知的欲望という渇きを癒そうと水を求める多くの人々に、80年間休むことなく清らかな水を与えてきました。いかに多くの人が美味しい水に喉を潤し、人生の難苦を乗り越える勇気を貰ったことでしょうか。私もその一人です。

しかし、今流れている水は昨日と同じ水ではありません。アーネスティン・ホワイトがITCを創立した1938年から2016年の今日までの78年間の世界の変化は80年前には想像もできない程大きいものです。

「グループの中でこそ個々の人間が成長する」というアーネスティンの信念のもとに立ち上げられたITCは、脈々と絶えることなく今日まで流れて来ました。人々が集い、言葉を交わし合い、互いを理解し合う。それが原点です。そのために必要なのが美しい言葉を流暢に使いこなし、礼節を保ってお互いを尊重する姿勢であり、これぞリーダーとして求められる姿です。

ITの進歩は目覚ましく、世界を席捲しています。今やIT無くしては何も出来ない時代になりました。とは言え、人間の心までITにお任せは出来ない。人間にしか出来ないこと。それが言葉によるコミュニケーションです。長年の鎖国から一気に国外に門戸を開いて、近代日本への道を切り拓き、言葉の壁を乗り越え、繁栄してきた日本。今では世界に冠たる国となっています。明治の人がやってきたことを現在の我々にできないはずはありません。

ITCは国際組織です。それを忘れて日本リージョンはありません。そのことを念頭に置いた上で、ITCそのものがこれからどのような道を歩むのか、その中で日本リージョンはどのような役割を果たすのかを考えねばならない局面に立っています。与えられるものを待つのではなく、自分に何が出来るかを考えていただきたいのです。

ITCが堅持してきた精神と原理原則を守りながら、会員減少と高齢化に対応するための方策として、効率化と簡素化を図り、新しい道を模索することが、今後の課題です。考えただけでは結果はでません。行動に移すこと。それが解決に繋がります。

第34回年次大会を迎えるに当たり、ここで皆様をお願いしたいのです。先人たちが守り育ててきたこの稀有な組織を未来に繋げられるのは、今の会員即ち私たちだけなのだということを心に留めていただきたい。

ITCの河の流れは絶えずして、その清らかな水はこれからも会員の喉を潤すことでしょうか。未来を信じること。それは自分を信じることであり、人を信じることです。明日のITCの姿を思い描き、希望と夢を抱きつつ、前進したいと願っています。

## Keynote Address

---

**Kiyoko Takagi**  
The 34th Japan Region President

In his 12th-Century, Kamakura-period essay, *Hojoki [an account of my hut]*, Kamono Chomei wrote, “the river flows continuously but the water is never the same,” or, as Plato said, “you can never step twice in the same river.” As you all well know, the huge ITC River flows around the world, its tributaries running in many lands, yet, because of the water shortage, sometimes its flow is impeded, the bare riverbed covered with grass, and some may have suffered from its flooding. And yet the ITC River has not dried up, but has continued to flow, purely; for eighty tireless years, holy pure water has been running. How many have moistened their throats with the beautiful water, and gained the courage to overcome the hardships, the bitter flame, of life? I am one of these.

And yet, the water that flows today is not that which flowed yesterday.

In the 78 years since 1938, when Ernestine White established the ITC, huge changes that could not have been foreseen 80 years ago have transformed the global situation and our living environments. ITC, founded on White’s belief that human beings grow best within groups, has continued, ceaselessly, under that banner, to the present day. Through ITC, people have gathered, exchanged words, and reached mutual understanding. This is the origin of ITC. Necessary to this activity is an attitude of respect for one another and the mastery of fluent use of beautiful language.

IT’s progress is amazing, and its conquest global. We have reached an era in which we can do nothing without IT. And yet, we can’t rely completely on IT, particularly as concerns the human heart and mind. What humans alone can do is use verbal communication. We want to protect the river that flows continuously, no matter how many times we drink from it.

After closing itself off for almost 200 years, in one motion, Japan opened up to the outside world, cut its path to modernity, hurdled the language barrier, and prospered. Today it is a preeminent nation. There is no reason Japan Region cannot do the same. ITC is an international organization. Forget this, and Japan Region is no more. We are at a stage in which, with this in mind, we must consider what path ITC will walk, and within ITC, what role Japan Region will play.

While maintaining the intention and principles of ITC, the big issue going forward will be how to forge a new path to optimize efficiency and simplify in order to create a policy to deal with a shrinking and aging membership. Since my inauguration as president, I have been proud to be an ITC member, and have maintained self respect while applying myself wholeheartedly to achieving mutual understanding among our membership.

As we prepare for the 34th Japan annual conference, I again ask every one of you to maintain the passion and will of our predecessors as you pave the way to connect this rare organization to the future. Only we can do this. As long as this pure water flows, so does ITC River, whose waters will always quench our thirst. To believe in the future is to believe in yourselves. I hope to walk forward, step by step, keeping the image of ITC, and its hopes and dreams, in mind.

Thank you.

公式訪問者 ITC 会長 Christine Endo

## 1. 国際役員会

国際役員会は、2015年の世界大会を含む3度の役員会を行い、サイバー役員会を8回行いました。



## 2. 会費

2016-2017年の会費は現状のままで、\$90としました。8月14日が納入期限です。8月31日までに納入しない場合、10%の課徴金が課せられます。

## 3. 刊行物によるコミュニケーション

- From the Boardroom は8~10週間に一度、発刊。  
会則修正や指名の提出、Target 20/20への応募や2019年世界大会への申し込み、資格認証、スピーチコンテスト、ライティングコンテスト等々を掲載します。新入会員や記念例会日を掲載。資格認証、Target 20/20の達成クラブ、地域で表彰を受けた人を認定する予定です。達成した場合は Division 副会長に連絡して下さい。
- The POWERlines Newsletter は PREM 活動に大きな役割を果たしています。
- POWERtalking Magazine は PR 手段に限定して発行。誰もが興味を持つ内容に努め、外部の人、この組織が何をしているか興味を抱く内容としています。編集者は情報を集めているので情報は杉谷和代さんまで知らせて下さい。
- Member Spotlight は従来からありますが、ウェブサイト上でいつも最新の情報が載せられるようにしています。Mary Flentge 次期会長は、特集する会員を募集中です。申請用紙に記入をして杉谷さんに連絡して下さい。
- In a Manner of Speaking は刊行物ではなく、ウェブサイトの PR 用のツールとして、外部の人を勧誘しその後 ITC POWERtalk の訓練に興味を持ってもらうようにと作られたものです。このタイトルは新聞社の編集者とクラブを紹介しようとした私で考案したもので、この言葉が毎クラブ例会の前に新聞に掲載して PR としました。自分用に使ってください。

## 4. 2017年の世界大会

2017年の世界大会はコーディネーターの Doris Ginther と Karen Janke が活動開始しています。現在大会準備委員会は大会ニュースレターの第1号を準備中です。

世界大会は、アメリカ西海岸、ワシントン州シアトルの Airport Hilton Hotel で開催されます。大会テーマは Set Sail for New Horizons (新しい地平線へ出航)。

2017年7月21日(金)~26日(水)。皆様ぜひご参加ください。

## 5. 役員会の目標

目標の一つに Job Description Manual の作成があります。リージョン、カウンスル、クラブが適切に使用することを目的としています。会員の達成度を知りたいので是非小菅さんにお知らせ下さい。

**お忘れなく!**

Target 20/20 の申請をお忘れなく、期限は7月1日 宛先は Mary Flentge 次期会長です。

## ITC 副会長メッセージ

ITC ディビジョンIV副会長

小菅 あけみ SC.Fellow of ITC



世界中のリージョン大会は、4月にアイスランドから始まり、7月に日本リージョン大会で終わりました。今期、ディビジョンIVでは、これからのITCの組織の改革を考える大きな動きがみられました。ニュージーランドではITCの未来を見据えたフォーラムが開かれ、続いてオーストラリアでも、ニュージーランドと合同フォーラムを行いました。経費を減らすために、国際役員会やIMSについての具体的な意見がでました。

日本リージョンでも分割問題を含むフォーラムが開かれ、周到な準備のもとに意見発表を通して、国際への理解とリージョン会員のつながりが強くなりました。分割の件は国際役員会（3人）と日本リージョン（7人）による委員会が設置され、そこでの話し合いの結果に任せられることになりました。

日本の会員数が半数以上となり、非英語圏の会員がアイスランド、オランダ、ルーマニアを含め6割を超えている今、言葉の壁を超えるようなコミュニケーションの工夫が必要です。

FtBやパワートーキング送信など、軌道に乗ってきました。委員会活動は来年のシアトル大会に向けてもっと活発になるでしょう。特に会則修正は組織変革の基本です。秋の締め切りに向かって、将来を考えた修正案が各レベルから出るように、今からご検討ください。

ITCの財務状況は、アメリカにIMSが移ってから支出は減っているものの、更に削れる所を検討し、変える勇気が必要です。アメリカにチャーターがあるので、アメリカの規則は無視できませんが、みんなで前向きに考えていくしか道はありません。ITCへの熱い思いと感謝を持って一緒に変えていきましょう。

**Akemi Kosuge SC. Fellow of ITC**  
ITC Vice President, Division IV

ITC Region Conference began in Iceland in April and ended in Japan in July. Division IV Regions had forums to talk about future possibilities for our organization. Japan Region included discussion in their forum about Japan Region becoming smaller Regions. A committee will be organized with 3 members from the International Board and 7 members chosen by Japan Region Board to serve on the committee.

More than 60 % of the membership is now composed of non English speaking members and we need to find better way of communicating each other.

Let's cooperate together for the better future of ITC with passion and gratitude.

## 役員・任命役員からのメッセージ

### 今期を終えて

書記 川崎 瑤子

クラブ書記をして以来二十数年経ちました。今回はリージョンの書記として、すっかり忘れてしまっていた役職の仕事を思い出しながら、役員としての責任を重く受け止めて、一年の任期を終えました。議事録ではいかに簡潔、かつ確実に記すか、的確な言葉を選ぶか等々勉強しました。必要なのは結果を正しく明記すること。すべて勉強でした。役職としての活動の外にそれ以上の多くの新しい発見がありました。先輩の方々の教え、人生の行き方、経験豊かな考え方等々、に触れることで、この一年で得たものは計り知れないものです。役職から他カウンスル、記念会合に出席する機会も多くありました。そこで日本中の広範囲に及ぶ他カウンスルの方々と意見を交換できたことは私にとっては素晴らしい、貴重な人生経験ともなりました。

場所は変わるけれど、皆 ITC 会員だという仲間意識、だからこそ初めての出会いでも一気に溶け込み友達に、底辺に流れる意識の暗黙の合意などを肌で感じ、日本の ITC は本当に素晴らしいと再確認しました。1年間ありがとうございました。

### 議会法規役員からのメッセージ

議会法規役員 常田 道子

議事法を難しいものと思いき敬遠気味の方々がおありではないかと思いますが、ITC の運営には議事法が欠かせません。守るべき手順を踏み議事を進めていけば、整然と抜かりなく議事進行ができます。難問と思われたこともルール通り進めている内に自然に解決していたという経験をお持ちの方もきっといらっしゃるのではないのでしょうか。例会で時間不足のために省略しなければならない時何を省かれますか。例会でのビジネスの順序は、先ずロールコール、これはサイレントでもでき時間の短縮にはなりません。でも省くわけにはいきません。前回議事録朗読、これを省いた場合は会期中のどこかで朗読の時間をとるか、全員に配布するかして次回議事録の朗読の前に承認をとらねばなりません。通信、会計、役員、委員会派遣員の報告は審議事項の前にします。何故ならば、それらの報告の中に審議すべき事項が含まれているかもしれないからです。このように何故それがそこで取り上げられるかを考えてみますと、ロボートの論理的なことがよくわかり領けることばかりです。

上部レベル、例えばリージョンに通信を送る時はカウンスルにもCCで送ります。送り手が他の会員である場合は会長にも必ずコピーを提出しましょう。それは組織運営のために必要な手順です。受けとった通信はそれが誰と誰に必要なかを考え、手配します。会長は全ての責任を負う人ですから今何が行われているか、行われようとしているかをいつも把握していなければなりません。会員歴の古い方々はこういうことを自然に身に付けていらっしゃると思います。

### RCLOをしてよかった

RCLO 村山 紀子

高木会長からRCLO (REGION COMMUNICATION LIAISON OFFICER) を依頼されました。日本リージョンと国際間および国内の英語クラブとバイリンガルクラブの間を結ぶ役職です。私の頭の中には不安の黒雲が湧きあがりました。すぐに会長は私の気持ちを察してくださり「何をどこへ配信するか、何を翻訳委員会に依頼するかはその都度ご相談しましょう」と明るく穏やかな声でおっしゃいました。その黒雲は青空高くパ〜っと消え去りました。

ICLO Verdella Gilma さんからのメールは楽しみです。各月に届く FtB、たまに届く POWERtalking Magazine, POWERlines や Information などには簡潔かつ必要な言葉が添えられています。私も受信確認の短い言葉を添えます。いつも同じような言葉のやりとりですが英語の表現力が少しずつ身につけていきます。お会いしたことの無い方ですが、今では、Hi, Verdella と親しみを込めて First name で呼べるようになりました。

CLOを通して質の高いコミュニケーションを経験することができました。

## 委員長からのメッセージ

### プログラム・教育委員会

委員長 加藤 玲子

今期はリージョンサポートビューローの活用について考えることから始まりました。

少人数クラブにも利用していただけるように参加人数の条件を無くし、会員講師や会員リーダーの指定を可能としました。締切を設けず年間を通して利用していただくことにしましたが、予算と交通費の問題から利用制限額を設けました。

リージョンサポートビューローは、利用条件が毎期変更されているため、プログラムを早くから計画するカウンスルやクラブにとっては、利用しづらいのではないかと考えられます。また、ワークショップリーダーの募集、会員のご推薦をお願いしましたが、新しい会員のご推薦をいただけなかったのは残念でした。会員が講師やリーダーの経験ができるいい機会ですが、運用についてはもう少し検討する必要があるようです。

リージョン年次大会の全体講演、外部講師3部門と会員講師を2部門3名の教育セッションは、講師の皆様がITCを良く理解されて講演、ワークショップを行っていただけたように思います。事前の打ち合わせや準備が大切であることを改めて実感しました。

ここ数年開催されていたミニ教育講座に替え、フォーラム「日本リージョンの未来を創る」を行いました。提案、資料作成、意見投稿等々、多くの会員の皆様にご協力いただいたことに感謝申し上げます。会員がより良い日本リージョンの未来像を描けるようにという目的で開催しましたが、このフォーラムを始まりとしてこれからも意見や動きが広がっていくことを願っています。

一つの目的に向かって意見交換しながらまとめあげていくことは大変でしたが、大きな充実感、達成感を得ることができました。こうした委員会活動に参加してチームワークの魅力を経験していただくことはITC教育の一つであり、会員の大きな学びになることをお伝えしてプログラム・教育委員会のまとめとします。

### PREM委員会

委員長 石崎 郁子

1. 「どこでもドアノック プロジェクト」お薦めプログラム一覧表  
各カウンスル・クラブの協力を得、10月初日にリージョンホームページに掲載。カウンスルをこえての交流、プログラム作成に役立った。
2. カウンスル・クラブPREM委員会報告は年2回行った。  
第1回PREM委員会報告（臨時リージョンメール第2号掲載3月）  
会員増強（欠席者の対応、広報、入会に至った経緯、悩み、取組み）に関して尋ねた。新聞社や他の団体への声掛け、各クラブ例会の雰囲気づくりなどがあげられた。  
第2回PREM委員会報告（リージョンホームページに掲載6月）  
専門的な知識・文化・芸術に触れる機会を提供するプログラムに、ゲストが多かった。特に今までにないプログラムとして、他団体との共同企画などが多くあった。  
年令の高いクラブ、少人数クラブではゲストを迎えるにも苦労があるが、例会や会合は多くの人達の知力と労力の結集であることを実感した。
3. 年次大会では継続会員表彰式（75名）、新入会員最多クラブ、新入会員最多紹介者を表彰した。

## 資格認証委員会

委員長 原田 かおる

世界大会での会則修正（クラブに於いては資格認証委員会設置が必須ではなくなった）により、コース取得への影響を危惧しましたが、今期も沢山の申請がありました。各レベル全ての資格認証委員長の尽力と会員の皆様の意欲の賜物です。

資格認証課程は自己啓発と自己研鑽の標しです。会員の皆様の積極的な参加を来期も期待いたします。

以下、本年度の主な活動報告を致します。

1. 今期もリージョン資格認証委員会が各カウンスルからの申請を一括し、国際へ申請を行いました。コース取得者は、合計63名です（コースⅠ：32名、コースⅡ：21名、コースⅢ：10名）。尚、コース取得者数の各レベルの一位は、カウンスル：No.1、クラブ：栄（No.1）でした。
2. APノートの改訂版発行（薄青緑の表紙）に際し修正を加えました。また、最終ページに各種申請書を綴じ込みましたので、コピーして利用できます（リージョンメール第5回参照のこと）。WEB上でも申請書は引き続き掲載しています。
3. 国際からのお知らせ等は、今期はありませんでした。

## 翻訳委員会

委員長 木村 由利子

日本リージョンに於いて、初めて委員長の任務を引き受けることになり、重責ではありますが、8名の委員の協力を得て、任務の遂行に努めております。前年と比較して翻訳業務は少なかったものの、それでも、委員には提出期限が短い中で、慌ただしい年末年始に掛かる業務にもかかわらず、ご尽力を頂きました。

隔月に発行される FtB には、国際役員会からのメッセージ、業務に関する項目、世界の会員状況等、ITCの会員にとって重要かつ有益な情報が掲載されていますので、一読されることをお勧め致します。それが、委員が任務に取り組むことへの意義にも繋がります。

<主な活動>

\* FtB#120~121 2015年10月~12月、FtB#122~123 2016年2月~4月

\* The Way Forward Discussion Document from Linda Bergman 2015年9月

\* 日本リージョンから提起されている問題と疑問 2016年1月

最後に、任期を通して思うことは、委員の努力があればこそ、委員長としての任務を終えることができる、ということです。ご協力頂いた委員の方々に心から感謝すると共にお礼を申し上げます。

## 2017年 ITC世界大会のお知らせ

**開催日：2017年7月21日(金)~7月26日(水)**

**開催地：米国ワシントン州、シアトル**

**ホテル：Hilton Seattle Airport & Conference Center**

**SeaTac 空港からホテルまで無料シャトルがあります。**

シアトルによく行かれた方のお話によりますと、シアトルは空港から市内へのアクセスも列車がありとても便利、緑豊かな土地で、気候も良く、観光地も沢山あり、ポートランドまで足を延ばすとTaxフリーで買い物出来る等々、魅力一杯の都市のようです。

**皆様、来期世界大会に是非参加しましょう!!!**

## 特別委員会からのメッセージ

### 教育・資料研究委員会

委員長 加藤 啓子

リージョン会長の意向により、ITC 組織そのものが教育機関であるので、教育資料を日本独特で日本らしい深みのあるものをつくる事を目指して設立された特別委員会です。

委員会は会長の意向を反映した資料づくりのために活動し、今期下記2種の資料を発行いたしました。

I) 会員が作成し、各レベルで実践されたワークショップに対して、日本リージョン資料に相応しいとしてご推薦があったワークショップ資料を発行しました。

この資料は日本文化に即した深みのあるもので解りやすく、どのレベルでも即、役立つものです。

作成者であるカウンスル No.5 大阪クラブ 坂口正子さんのご了解とご協力により、新しいワークショップ資料「潜在能力の開発」を発行いたしました。

II) 第2回報告で記載しました ITC の役職やアサイメントの資料「クラブ役員マニュアルB3」の見直しに代わって、ITC と日本リージョンの歴史を新入会員や継続会員にも再認識して頂くための資料として「ITC 80年の歩み」を発行いたしました。この資料も坂口正子さんが既存資料を纏めて下さったお蔭で出来上がりました。当委員会が監修し、資料として発行いたしました。

今期入会した日本リージョン新入会員も10年、20年、30年、40年、40年以上の継続会員にとってもITC 80年の歩みを再確認する事は有意義であり、新入会獲得、オリエンテーションなどにも有効だと確信しています。

### 日本リージョン 未来構想委員会

委員長 大野 三恵子

委員会の最大の課題は、国際役員会から勧告として提出されたリージョン分割問題を考え、その解決法を話し合うことでした。

委員会を2グループに分け、ITC 会則の翻訳解釈の違いを検討し、必要であれば修正案を作成するグループ。3分割勧告に対して、分割する、分割しない場合のメリットデメリットを検討し、アンケートを作成するグループとしました。クラブ単位ではなく、会員の意見を聞くことが大切だという結論に達し、1月23日に全会員に分割問題に対するアンケートを配信しました。ご協力くださいましたクラブ会長、カウンスル会長にお礼を申し上げます。

収集されたその結果は、4月5日に国際役員会に提出し、会員には会長メールを通じて配信されました。その報告を基に検討された結果、6月28日に国際役員会から「勧告は取り消し、国際役員会と日本リージョンとで共に未来について考える」という案が出されました。

私たちはこの一年、日本リージョンのあり方について話し合う機会を多く持ち学びました。

「正解のない問題ほど時間をかけて十分に話し合うことである」と哲学者アドラーが言っています。

私たちが ITC から何を学び、何を育てていくのかを考えるとき重要なことは、クラブ会員の充実、クラブ運営の活性化、組織運営のあり方に目を向けることであり、そこに未来がかかっているのではないのでしょうか。ITC を愛する会員によって魅力的な日本リージョンを継続し、未来のために多くのお仲間を増やしていきたいでしょう。

### リーダー育成委員会

委員長 葛谷 美紀子

1. 委員会を2回開き、ITC という組織におけるリーダー像、リーダー育成について話し合いました。
2. 委員会からのメッセージをリージョン会報1号に寄稿しました。
3. リージョン会報2号(7ページ)に「指名委員会—よいリーダーを指名するために—」が掲載されました。
4. リーダー育成に関しては、具体的な発掘、育成に至りませんでした。今後の日本リージョンの発展には良きリーダーによる運営が必須です。

委員会作成の「指名委員会—よいリーダーを指名するために—」をリージョン、カウンスル、クラブで、プリントアウトして、若手の活用や指名の参考資料にいただければと願っています。

# 第34期 ITC日本リージョン役員会年次報告

2015年8月1日～2016年7月31日

第34期日本リージョン役員会は、テーマ「行動して解決を」“Action & Solution”のもと 1. 自クラブの展望を持つ 2. ITCの基本理念を再認識する 3. 未来を見据えて、人材育成と教育に務める、の3つの方針で以下の活動を行った。

## ① クラブ数・会員数の状況

日本リージョンは今期8カOUNSル75クラブ1148名（重複会員45名）でスタートした。  
7月5日現在、クラブ数75クラブ、会員総数1,176名、新入会員33名である。

## ② 研修会報告

- カOUNSル運営研修会（CMT）は2016年7月4日ホテルグランヴィア京都で10部門で開催された。
- トレーニングパワーパック（TPP）は7月4日、公式訪問者Christine Endo ITC会長により行われた。
- 年次大会の評価は7月6日年次大会終了後、公式訪問者Christine Endo ITC会長より行われた。
- 評価後、公式訪問者により日本リージョン新役員を対象にリージョン運営研修会（RMT）が行われた。

## ③ 主たる活動

- 役員会は定足数を充たし現在までに14回開催、任命役員の議会法規役員、編集者も出席した。
- 役員は、8カOUNSル第1回会合に公式訪問を行い、リージョンの方針を伝えた。
- リージョン会報は、年3回発行を予定し、全会員に第1号、第2号を配布した。
- リージョンメールは2ヶ月に1回配信し6月までに6回、また臨時号を3回、会長通信2回配信した。
- 会長は、国際役員会にリージョン会長報告を2回提出し3回目を提出予定である。
- 特別委員会として日本リージョン未来構想委員会、リーダー育成委員会を設置した。  
日本リージョン未来構想委員会ではリージョン分割についてのアンケートを行い、その集計表を作成、委員会としてのまとめを会員に配信した。リーダー育成委員会では「指名委員会－よいリーダーを指名するために－」を作成し配信、掲載した。
- リージョンPREM委員会はリーフレット、「どこでもドアノックプロジェクト」お薦めプログラム一覧表を作成しウェブに掲載した。
- ウェブサイト：リージョンホームページの充実を図った。リージョン及びITCからの最新情報、国際会計監査報告書を掲載した。  
国際とのつながり：隔月に配信されるFtBおよびITC大会の情報を翻訳しクラブに配信、リージョンウェブサイトに掲載した。
- リージョンサポートビューローはカOUNSル、クラブからの講師派遣要請に応じ、3回の活動のサポートを行った。
- 地域への発信：カOUNSルNo.3主催「第5回高校生スピーチコンテスト」、カOUNSルNo.7主催「ITCの集い」、ひがし広島クラブ主催「小中学生スピーチコンテスト」、カOUNSルNo.2主催「三世代スピーチフェスティバル」合計4件の助成をした。
- 本年次大会はCMT終了後フォーラムを開催し多数の会員の参加を得た。
- 事務局は教育資料委員会監修、坂口正子作成「潜在能力の開発」、「ITC 80年の歩み」の資料を配信、掲載した。

第34期日本リージョン年次大会は、2016年7月4日、5日、6日の3日間の日程で大会テーマ「懐・古・挑・新」“Visit the Old, Challenge the New”のもと、ホテルグランヴィア京都にて開催された。

第34期日本リージョン書記 川崎 瑤子

## 第34期日本リージョン大会審議結果と会則自動修正の報告

### 会則・決議委員会

第34回日本リージョン大会において、当日提出された決議案の審議結果は下記の通りです。

決議案 可決

(提出者：芦屋クラブ)

リージョンメールの資料によると ITC の会員数は2,148名の内、日本リージョンの会員数は1,169名と全体の53%を占めている。毎年日本リージョン大会では800人規模で会員にとってはまさに学びの最高の場になっていると共に、秩序ある大会運営を行うノウハウが確立しているの；  
2019年に迎える ITC 80周年記念世界大会を日本で開催することで、創設者のアーネスティン ホワイト女史の思いの結集を盛大に実現できることは確実であるの；  
そして、日本リージョン会員にとって世界大会を身近に体験することは ITC への理解を深めるのに最適な機会であると考えるので；  
よって2019年 ITC 80周年記念世界大会（ルビー大会）を日本で開催することを日本リージョンとして ITC に応募すること、を決議する。

可決された決議案について「次期日本リージョン役員会に一任する」動議が提出され、採択された。

### 日本リージョン会則 自動修正

ITC 会則の必須条項である 16.8.「創設・再設定・解体」 は、日本リージョン会則では第3条3.会員3.3.境界線に、一部欠如のまま、表記されていた。そこで、サンプルリージョン会則を参照し、下記の通り自動修正した。

日本リージョン現行会則3.3.境界線を削除し、必須条項「創設、再設定及び解体」を新たな第5条として、以下条項番号を繰り下げる。

#### 第5条

##### 5. 創設、再設定及び解体

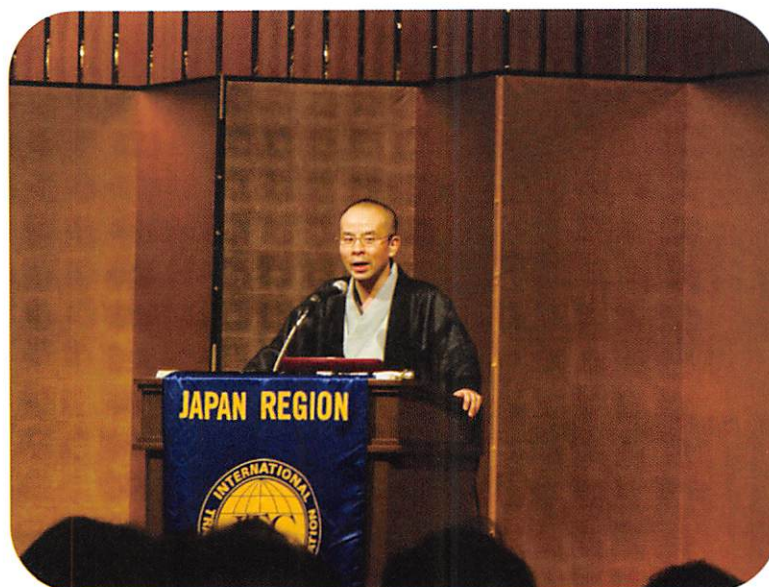
- 5.1. ITC 役員会は、リージョンの創設、再設定、解体をリージョンレベルの関係者と共に調整する。その場合、ITC 役員会が最終的な承認を与える。
- 5.2. 再設定
  - 5.2.1. ITC 役員会は、関係するリージョン役員会と協議の上、リージョンの境界線を再設定することができる。リージョン役員会は最終決定が下される前に、影響を受けるリージョン内のクラブと連絡をとり、かつクラブからの意見を奨励する。
  - 5.2.2. 境界線再設定については、ITC 役員会は、事前の通知をリージョン役員会が放棄しないかぎり、再設定の発効日の1年前に、リージョン役員会に新しい境界線の通知をするものとする。再設定の完了の手続きは ITC 役員会の指示により行う。
  - 5.2.3. 再設定又は解体で影響を受けるリージョンの所有財産は会計監査後、新しいリージョン間で、再設定されるクラブ数に基いて配分される、または ITC 役員会の指示により処理される。
 

※ 日本語校正上の修正をした。

## 講演

## 「利休の想いを今に —茶の湯の過去・現在・未来—」

武者小路千家15代家元後嗣 千 宗屋 氏



プログラムリーダー 王 久美子 (大阪)

大会3日目の講演は、7月6日（水）午前10時から行われました。今年の夏は暑く大会の3日間は、京都盆地も猛暑（ホテルの中にいるとわかりませんが）でした。そんな京都の暑さの中、国際ゲストや集まっている全国からの聴衆を優しくねぎらわれ柔らかいムードのうちに講演は始まりました。



利休を直接の祖とする流儀、表千家、裏千家、武者小路千家の三千家のうちの武者小路千家若宗匠のお話です。利休から現代そしてこれからという永い壮大なイメージに90分どのようにされるのかと思っておりました。

三千家の由来、京都での立地、明治維新後の苦境から総合芸術としての現代の立ち位置に至るまでの歴史をパワーポイントを使ってわかりやすい言葉で、さらさらとお伝えになりました。広い会場ですが大きなスクリーンが2か所設けられ、皆様しっかりとご覧いただけたことでしょう。

そして現代です。2008年には文化庁文化交流使としてニューヨークに一年間滞在して欧米で活動されました。茶の湯の本来の目的は茶事を楽しむことである、との観点から現代アートの芸術家や建築家など他分野とのコラボレーションに精力的に取り組まれています。

その中でも現代の住環境に会うように若宗匠が考案された茶机（ちゃき）はテーブルに釜が組み込めるようになっている椅子席で、普通のマンションのダイニングルームにも違和感のないものです。そのテーブルを囲んでお抹茶がいただけるなんてなんと素晴らしいことでしょう！これからの茶の湯を実践していく夢や希望を感じさせていただきました。

盛りだくさんの内容でしたが、慶應義塾大学、明治学院大学で講師をなさっているだけあって時間きっちりと終わられ、さすがでございました。

# フォーラム「日本リージョンの未来を創る」

プログラム・教育委員 中西 眞佐子（京都）



「日本リージョンを三分割する」という ITC 国際ボードの勧告を受け、全ての会員が勧告の意図を深く理解し、各自の判断を確立できるようフォーラムが企画されました。森 尉江さんをプログラムリーダーとして「私達は何を知っておくべきか、今後どのように考えるべきなのか」当日は三者の解説を通して ITC 国際の現状を知り、また現在の ITC を率いるトップリーダー達の提言、さらにはメンバーの意見を聴き、これらの解答に近づくことができました。

## Part I 解説

### 解説A 「ITC NOW」

クリスティン エンドウ ITC 会長

リージョン大会の1週間前に「三分割の勧告を撤回し、日本側7名と国際側3名の委員で構成する委員会新たに検討を始める」という国際ボードの決定通知が届きました。フォーラムでは、この決定通知と分割勧告の理由と状況を ITC ボードの考えとして丁寧に説明されました。

小菅 あけみ Div.IV副会長

まず ITC の組織や会員の現状について世界的な会員数の減少傾向、分布の偏在などをスライドで示されました。続いて IMS (ITC マネージメントサービス) の概要、AC, DC など資格認証制度の称号についても聞き馴染みのない会員のために分かりやすく解説されました。

### 解説B 「国際会計の現状に関するミニレポート」

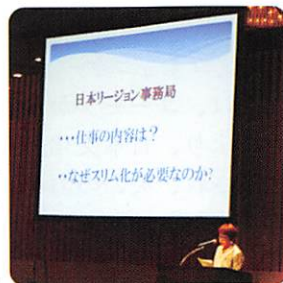
石川 恵悟 (東葛・名城)

石川恵悟会員は、ITC 国際の現状、その財政面を明確に解説されました。まず、ITC の財政状況について現在は以前より改善されていることを述べられた後、収支状況、資産残高状況、IMS の費用、マーケット戦略への出費についての過去14年間の動向をスライドで説明されました。そしてこれから検討すべき重要課題として3点を挙げられました。この解説は日本リージョンの会員のみならず海外ゲストからの強い関心も集めました。

### 解説C 「未来を共有するために」

杉谷 和代 未来構想委員会 (イースト神戸)

杉谷和代会員は、未来構想委員会を代表し、アンケートに寄せられた質問への回答、委員会の総括意見、加えてオーストラリアリージョンのフォーラムの内容の一部を紹介されました。質問への回答は①海外リージョンの分割統合事例②事務局のスリム化③日本リージョン大会と3つの課題に分けられ、それぞれに未来構想委員会が検討された内容が述べられました。総括では、日本リージョンが他国のリージョンと協調しながら変化と進歩に向かう将来を、また ITC の歴史と恩恵を次代に繋げる責任を、熱く語られました。またオーストラリアのフォーラムの紹介では、他国でも同様に ITC への危惧を感じていることを知り世界との距離が縮まったように感じました。



## Part II 提言と意見発表

### 提言A 「理想の日本リージョンとは」

高木 清子 日本リージョン会長

高木会長は、「会員の資質と意識」を厳然と問われました。ITC 宣言に書かれている理念の原点に戻り、自分自身に問いかけ自己研さんに励むことの大切さを述べられ、理想的な日本リージョンとは、会員が何を学び、何をしたいのかというニーズを満足させると同時に、常に刺激的な知的追及の場を提供する日本リージョンであると結ばれました。

### 提言B 「未来のリーダーたちへ」

小菅 あけみ Div.IV副会長

小菅副会長は ITC 国際ボードの一員となられてカルチャーの違いをまざまざと感じつつ議論された様子などご自分の体験を話され、世界で通じるコミュニケーション技術のトレーニングの大切さを、またスカイプやフェイスブックなどの現代的なサイバーツールを活用し、若い世代の育成活動や海外留学生へのケアによって会員の増強を図り、世界に広がっていく ITC の未来を次世代へのメッセージとして語りかけられました。

### 提言C 「外から見た日本リージョン」

マーガレット・サザランド 元 ITC 会長

サザランド元 ITC 会長は、今日までの日本リージョンの歴史を振り返り、その発展の様子を感慨深く語られました、そして分割問題についての自身の考え、また自分の夢は日本から ITC 国際会長が生まれることだと日本の会員に温かいエールを贈られました。

### 意見発表

7人の会員が演台に立ち意見を堂々と発表されました。賛同の拍手も起こり、さすが ITC のメンバーと感心させられた一幕でした。その後、礼儀正しくフロアから出された質問に海外ゲストが快く返答され、和やかな雰囲気の中にフォーラムは終了しました。

## 教育セッション報告

### A 「女性のための図工で学ぶ立体脳トレ講座」

国際フルーツ協会代表  
中野 瑞樹氏

プログラムリーダー 後藤 陽子 (名城)



中野瑞樹先生はフルーツ中心の果物だけの食生活を続けて7年目、体を張ってのフルーツ研究家でいらっしゃいますが、今回は「立体脳トレ講座」を行って頂きました。この講座はマジック3色をご持参下さい。とご案内致しましたが、3色のマジックを選ぶ事から「立体脳トレ講座」が始まっていたのです。

90名ほどの参加者に中野先生はマイクなしで講演をされ、その迫力あるはっきりとした明るいお声は、聴いている私たちにパワーを与えているような印象を受けました。講座は、ドラえもんのお話から入り、ゼロ次元空間の世界から三次元空間の世界までのお話でした。そして、綿棒ワークへと入って行きました。

綿棒の柄のところにマジックで色付けしながら正多面体への理解が出来るように作業していきます。そして綿のところにボンドを付けて乾かし、正四面体、正六面体、正八面体、を作成して行きました。これが出来たら「正六面体（立方体）をより強固にするために8本の綿棒を使って考えて下さい。」の課題に取り組みました。流石にITCの方は短時間で閃き、あちらこちらで手が上がり、中野先生よりお褒めの言葉を頂いていました。「出来た方は出来ない方へ教えて下さい。」の言葉で、会場内は集中して緊張して悪戦苦闘していた空気が和やかな雰囲気になって行きました。参加者からは正二十面体へのチャレンジをしてみたい、四次元の話を知りたい、フルーツの話を知りたい等、積極的な言葉を耳にしました。創造力や思考力が「脳トレ講座」で養われて一段と豊かになったのであればとても嬉しい事です。

### B 「笑いとコミュニケーション」

神奈川大学教授 英語落語家  
大島 希巳江氏

プログラム・教育委員 武井 直子 (柏・東葛)



大島希巳江先生の美しい着物姿に見とれる間もなく、パワー溢れる語り口で、ユーモア・笑いの力を英語落語海外公演の体験から話され、最後は英語落語を熱演されました。

最初に明石家さんまの笑顔がスクリーンに映され、笑いは敵を作らず、味方を増やし、ストレスから解放し心身に健康をもたらす効果があり人間だけに与えられたものである、と話し始められました。コミュニケーションにおいて、共感すると顔が似るというミラーリング現象を実際の夫婦、飼い主とペットの実例を写真で挙げられた後、赤ちゃんのスマイルを作るため、割りばしを口に噛んでの人さまには見せられないトレーニング…。

次に笑いを引き起こすユーモアを理論面から捉え、ユーモアは、常識からのズレであり、常識の枠の外で考える力がユーモア力であるとの説明がされました。ユーモア力を上げる2題のクイズが出され会場が沸き立つ中、勢いよく手があげられました。

さらに、多様な視点を可能にするユーモアは異文化コミュニケーションにとって大きな働きをすることを、海外英語落語公演の体験から話されました。日本人は、ユーモアがないというのが実は落語という伝統のユーモア文化を継承しており、英語落語を演じることにより、日本文化のどこが異文化であるかを伝え、相手に笑いの中で寛容に受け入れさせることを実例から話され、笑いの力を実感させられました。イスラエル、ボルネオ、インドなどの各地で海外公演を行い、「なあんだ、日本人も優しいんだ」「日本人って面白い」と分ってもらえる体験が落語の身振り、手ぶりを交えて語られ参加者を領かせていました。

最後に英語落語海外公演の目標はRakugoという言葉が国際語として英英辞典に載せることであり、ユーモアが世界平和につながることを願っていると話されました。

この後、高座でバイリンガル落語「さるの小咄」「桃太郎」を熱演され盛大な拍手の中終了しました。



## C 「歴史が教えてくれる 日本人の生き方」

(株)ことほぎ 代表取締役  
白駒 妃登美氏

前川 雅子(姫路)



白駒妃登美先生はテーマにぴったりの優雅な着物姿でにこやかに登場されました。受講生は約180名でした。先ず福岡県田川中央中学校の生徒たちが自作自演し、全国コンクールで準優勝したドラマ「未来へのメッセージ」を鑑賞しました。内容は日本人の素晴らしさ、命の大切さを痛感させるものでした。

特に正岡子規が咯血で苦しみながらも、生かされている今を平然と精一杯生きる姿に深く感動しました。この印象的な導入から、白駒先生ご自身も大病を患われ生命の危機と向き合われ、先人たちの生きざまを振り返り、今この瞬間を精一杯生きようと強い思いを訴えられました。日本人の素晴らしさ、尊敬される由縁は道德心の高さにある、西郷隆盛は若い時代に沖永良部島に島流しされる逆境にあったが、戊辰戦争から明治維新に至るまでの社会変革の大きさに比べて犠牲や混乱が少なかったのは偏に西郷隆盛の偉大な能力によることなどを解りやすく話されました。また女性の例として、黒田清隆が明治の初めに留学生をアメリカに送ったがその中に山川捨松や津田梅子がいた。捨松は後に大山巖と結婚したが、留学中に得た英語力や上級看護師の資格を生かして帰国後に活躍したことなどを語られました。白駒先生の熱意溢れる講演に感動し、日本人として恥じないためにも日本の歴史や文化をしっかりと習得しなければと痛感した有益な講演でした。



## D 「コメント力を高めよう」

ITC東京クラブ  
佐野 千賀子氏

プログラム・教育委員 清水 典子(米子マンデー)

コメント力を高めたいと大勢が集ったセッションDは、楽しく、賑やかな90分となりました。講師の優しい語りかけと、テーブル毎のワークショップで時間の経つのも忘れる程でした。

講師は現在、家庭裁判所の調停委員や子供たちの英語指導もしていて、常日頃発言の重さを重視しているとのこと。優れたコメントはどういうものかを内容的、表現的の両面から分析し、その方法論を展開しました。コメントの語源はラテン語の‘commentum=お互いの心’ コメントは影響力を持っています。親や教師は常にコメントを発信しているが、そのコメント次第で子供はもっと努力をしたり、反発したり、やる気をなくしたりします。良いコメントができるようになるには、①相手への愛情を忘れない。②日常的に物に対するコメントを色々な切り口で書いてみることです。ITCの総評はコメントの集合体で、対象の人をもっと良くするための愛のあるメッセージが入っていることが大事です。グループワークでは、グループの1人が1分間スピーチをして他のメンバーは聞きながらコメントを書き、スピーカーが誰のコメントが一番か、その理由もつけて決定し、発表しました。このワークは大いに盛り上がり、発表したいグループが次々と手を挙げ、時間設定が狂う程の嬉しい誤算でした。チョットした褒め言葉はどんな人も幸せにします。長年連れ添った連れ合いを元気で生き生きさせるのもあなたのコメント力に掛かっています。穴埋めトレーニングから：映画「カサブランカ」の中の台詞「夕べどこに居たの?」「そんな〇〇〇〇ことは忘れた。」「今夜逢ってくれる?」「そんな△△のことは分からない」あなたのコメント力で、〇〇〇〇、△△を考えてみてください。このような例題がたくさん出され、思いもよらない回答に、一同多に感心し、納得しました。コメント力を高めたいと切に感じたセッションでした。



## E 頭がよくなる「思考地図」の使い方

ITCサンデークラブ 柴田 ひさ氏  
ITC横浜クラブ 斉木ゆかり氏

プログラムリーダー 烏谷 まゆみ(韮崎)

講師はお二人とも着物姿で颯爽と講義をしてくださいました。

まず、第一部はトニー・ブザンが提唱する「思考地図=マインドマップ」の説明でした。シートの真ん中にトピックを書き、そこを中心に思いつくままに曲線を書きます。曲線の上にトピックに関連する単語を1つだけ書きます。増やしたいときは、曲線に枝葉を付けて行きます。何を一番言いたいか色分けをしながら優先順位をつけ、頭を整理するという方法です。

第二部ではその実践。4人が1グループになり、まずは、手堅くITCをトピックとして真ん中に据え、思考地図作り。次に9個のマス目のシートの中心に自分の好きなトピックを書き、周りのマス目に関連する言葉を書いていきます。それを使いながら、1分間スピーチをすると、あら、不思議!頭の中が整理されてうまくスピーチができるではありませんか。最後は、自分が解決したいことをテーマにし、その解決方法を4人で回しながら書いていくという作業です。自分が思いつかなかった解決策も出てきて、目からウロコという体験もできたグループもあったようです。最初は戸惑いがちだった参加者もだんだん慣れてきて、思考地図作りに夢中になりました。終了後は、きっと頭がよくなった方が大勢いたのではないのでしょうか。



## スピーチコンテスト

第34期日本リージョンスピーチコンテスト委員長 河内 美音子

第34回目のスピーチコンテストも、卓越したスピーチに会員の皆様は感動されたことでしょう。(コンテスタントの皆様もカウンスルを終えられてからのご努力はいか程だったのでしょうか。)

感動と笑いに包まれた至福の時間を会員一同が共有できたことは素晴らしい事であり、年次大会でしか味わえない事です。その為にスピーチコンテスト委員会はコンテスタントには如何にステージでご自分の力を十分に出し切って頂けるかを考えました。役割担当者の方々は参加されたい講演等を我慢してコンテストを支えて下さり、そうした協力のもとで無事終了できました。委員会はITCならではの責任感と協和、ともに学ぶという精神で活動を行いました。

### 日本語の部

プログラムリーダー 川崎 邦子 (岡山)



	氏名(クラブ)	カテゴリー	論題	題目
1位	斉木 ゆかり (横浜)	鼓舞する	励む	成功の母
2位	奥澤 節子 (宝塚)	鼓舞する	いのち	命ある限り
3位	大内 基子 (北大阪)	楽しませる	人生	再び歩む

#### 優勝者スピーチ (要約)

論題：励む

題目：成功の母



「失敗は成功の母」と言いますが、今日は、別の観点から成功についてお話ししたいです。

気づいたら着られる洋服がなくなり、洋服を買うことにした私、ある日、夫に言いました。「着物ファッションショーへいくわ」。夫は「いいね、着物」、「いえ、洋服にリフォームした着物ファッションショー」。すると、「着物は着物として着るから着物なんだ。それを洋服にすると何事だ!」と激怒しました。

夫はアメリカ人、日本文化に憧れています。「そんなお金があるのなら着付けを習いなさい。そして、着物をきわめなさい!」

夫の名言に心打たれた私はさっそく着付け教室へ行き、その日から着付けの練習をしました。

1日目、稽古の後、家で練習しました。

できました。

2日目の朝、練習しました。

できました。

嬉しくて私はそのまま職場へ行ってしまいました。

3日目の朝も練習しました。

出来ました。

気づいたら1ヶ月経っていました。

今思えば、良く続いたと思います。練習をやめないから、忘れる暇がなかったと思います。

しかし、継続の最大の理由は成功の喜びにあったと思います。

上手く行くことは嬉しいもの、またしたいという気持ちが生れます。達成感がさらなる挑戦の原動力となるのです。

皆様、何か始めるなら、先ずは小さい目標を設定し、たくさんの成功体験を重ね、更なる成功への道を歩んでください。

もう一度言います。失敗は成功の母ではありません。

小さい成功こそ大きな成功の母なのです。

## 英語の部

プログラムリーダー 奥村 啓子 (千種)



	氏名(クラブ)	カテゴリー	論題	題目
1位	狩谷美穂(ひろしま)	Persuade	Communication	POWER music
2位	信澤昭子(柏)	Inspire	Every day is a new day	An unexpected gift
3位	乙野靖子(北摂)	Inspire	Drawer	My Drawer of Memories

## 優勝者スピーチ (要約)

Subject: Communication

Title: POWER music



Music exists in every culture in the world and ancient books like the bible and the Koran talked about the power of music. The evidence shows how music helped humans through difficult times. Take world war two as an example. In the United States, it was music that helped veteran soldiers who suffered from mental disorders caused by trauma experienced in the war. After the tsunami disaster, it was music that cheered people up and connected communities back together.

In Japan, one out of five people suffer from dementia. The problem does not stop here. Cancer rates continue to rise, more and more people suffer from depression and anxiety. Sadly, suicide continues to be a growing problem in our country. It's not a pretty picture, but all is not lost. We should consider using the power of music to improve our lives.

In a recent Harvard University study, it touched upon the benefits of music therapy. The study showed how music helps patients to recover from strokes. The study also found that listening to music reduces anxiety levels caused by chemotherapy. Music can help to recall memories, reduce agitation, and improve quality of life.

About a year ago, my mother passed away because of lung cancer. She was an energetic and positive person, but in her last days, she lost her ability to speak. Doctors had no way to treat her condition. With an oxygen mask on her face, quietly waiting for the last moments of her life was not easy for my mother or me. I wanted to do something for her. So, I sang. I sang her favorite song for her. She slowly opened her eyes and raised her hand to me, as if she was asking me to dance with her. So, we held our hands and enjoyed our last dance together. It was a beautiful moment. Music filled our hearts with so many happy memories and music took us right back to our living room where we used to sing along with our piano.

Music is a powerful way of communication and sometimes, it can be more effective than words. Music is a universal language and it is available for everyone no matter how old you are, what language you speak, how sick you are, and how many days you have left to live. It is there for everyone. Music can benefit our lives so much more than we know and the possibilities are infinite. As ITC believes in "POWER talk", now is the time to start believing in "POWER of music".

体調が悪い時、母の暖かな腕の中で聞いた子守唄は私にとって最高の薬でした。心地よい歌は私の気分や病状を改善してくれたことから、音楽には素晴らしい癒しの力があると考えられます。

音楽は古代からコミュニケーションの手段や治療として用いられた事が聖書などの歴史的文献からも明らかになっています。第2次世界大戦後の米国では、傷ついた兵士の精神症状の緩和に音楽が用いられ、その効果が認められました。多くの方が発症する認知症は治療が困難な病気ですが、音楽を効果的に用いる事で、失われた記憶と笑顔を取り戻し、閉ざされたコミュニケーションが再び可能になります。

ハーバード大学の研究グループも音楽療法のもたらす効果として、不安の軽減や言語機能の促進を挙げています。私は死を間近にし、言葉を失った母と音楽を通して繋がり、暖かな喜びを最後に共有する事ができました。音楽は世界共通の言語であり、すべての人がその恩恵を受ける事ができます。音楽の持つ力は無限です。ITCが「言葉の力」「POWER talk」を信じるように、私たちは「音楽の力」「POWER of music」をもっと信じる必要があります。

## ライティングコンテスト

## 英語の部 ノンフィクション

河合 康子 (イースト神戸クラブ)



## A bridge between Poland and Japan

At the beginning of 1990, after the Wall of Berlin was broken down and the political system in the Eastern Europe had changed from socialism to capitalism, a man came to Japan from Poland and ran about throughout Japan trying to get funding for the Japanese Department of the Warsaw University. He had a mission to save Japanese Department of the University which had been lasted for more than 70 years. He was a Japanese who got married to Polish woman. Both of them had taught Japanese Language to Polish students at the University for 20 years. They were Tsuneo Okazaki and Cristina Okazaki.

Before I met him I didn't know anything about Poland at all. But it was a memorable encounter for me to build up a strong tie between Poland and Japan. At that time I was a member of the Soroptimist International of Osaka Izumi, a volunteer group for working women. At the end of 1992, we organized a bazaar to raise fund for the Warsaw University and donated 100 million yen to the University, which was enough to manage the Japanese Department for one year. That was the beginning of our relationship.

Next year, in 1993, we visited Poland together with the Soroptimist members to make an agreement of partnership with Warsaw Soroptimist. We talked about our joint project for upbringing young people. At the same time we visited Warsaw University, where I met Mr. Okazaki again and his students for the first time. Word count 1450/non-fiction/essay 2/6 time. Attracted by Japanese culture, they worked hard to improve Japanese Language. Surprisingly enough they mastered Japanese within 2 years. Their attitude toward learning was so earnest. Mr. Okazaki ardently hoped to let them come to Japan to touch the Japanese culture directly. But it was almost impossible for them because exchange rate was ten times as much in Japan as in Poland. His wish touched me deeply.

Two years later, in 1995, we started up the exchange student project between Warsaw and Osaka Izumi Soroptimist. The first exchange student, Iwona Mroceccame to Osaka Kyoiku University with help of Soroptimist scholarship. During her stay in Japan she happened to attend tea ceremony which my friend, Mrs. Sugimoto held at her house. She was so deeply moved that after going back to Poland she told her friends about tea ceremony and taught them the manner. Though she learnt it only for a short period, she could explain the heart of tea. She planted a seed in Warsaw.

Before long the Soroptimist Osaka Izumi stopped the scholarship project. Thinking it took too much money for only one person, they chose to use such money to build a school in other developing countries. It was against my will. I broke off the relation with the Soroptimist.

1999 was the memorial year for Japan and Poland. The diplomatic ties between the two countries had been established 80 years before. Exhibitions and Word count 1450/non-fiction/essay 3/6 festivals related to Poland were held here and there to celebrate the eightieth anniversary of the friendship. I wondered why the diplomatic ties between Poland and Japan had continued for 80 years and also the Japanese Department of Warsaw University had been established such a long time before.

Poland is a flat country located between big and powerful Russia and Germany and was occupied by those countries. So the country itself was vanished away from the world map for several times. Because of the history, the Polish people had strong hatred to those countries. On the contrary, they liked Japan. I had not known about that till I first visited Poland 20 years ago. At that time, when we walked around Krakow city, the most beautiful town in Poland, many kids gathered around us with friendly feeling and wanted to take pictures together. I was really surprised, because in other countries Japanese were often looked down on as economic animals.

It was because our geographical situations were quite similar. Japan and Poland were always threatened by Russian invasion. Existence of Russia itself was an endless threat to both countries. But a small country, Japan, won the victory at the Japan Russo-War in 1905. At that time many Polish people were forced to take part in the war as Russian soldiers against their will. And many Russian and

Polish soldiers were captured by the Japanese as prisoners of war. The Polish Minister of Diplomacy came to Japan to ask the treatment of those Word count 1450/non-fiction/essay 4/6 Polish prisoners.

He asked the Japanese Government not to send them back to Russia but to exile them to America after the war. Of course the Japanese Government came up to their expectations. After Japan won at the Russo-Japanese War, the diplomatic relation between Poland and Japan was established. The more they knew Japan the more they were interested in it. In 1919, the 8th year of Taisho Period, Poland was independent. The Japanese Department was established in Warsaw University soon afterwards.

Celebrating 80 years' friendship between both countries, I established nonprofit organization Nipposalon with some of my friends to promote volunteer activities for supporting Polish students who wanted to study about Japan. We asked many friends to participate in our activities. Finally, 60 members came together and then we held a starting ceremony for Nipposalon on September 22<sup>nd</sup> 1999. I was the first representative of Nipposalon. The objective of Nipposalon is to support Japan and Poland exchange students, to foster members' friendship and deepen our understanding of both countries. In order to raise funds we regularly hold concert, tours to Poland every 5 years and other activities, together with the members' annual fees.

The following year, in October 2000, I organized a tour to Poland to listen to the Chopin Competition Concert with 20 members. In that tour, we visited Word count 1450/non-fiction/essay 5/6 Aushwitz which was preserved to remind us of the tragic legacy in the World War II. After visiting there most people felt depressed to see the misery of the War.

As the Chopin Competition Concert used to be held every five years, I also organized a tour with 30 members in 2005. During that tour we visited Warsaw University, where we were served green tea at a tea room. The student whom the first exchange student, Mrs. Iwona, had brought up played the part of hostesses. I was glad to see that the Japanese Tea Ceremony had taken root in Poland.

Next time, 2010 was Chopin's birth 200 years Anniversary. There were various events in Poland together with the Chopin Competition Concert. A lot of people from all over the world gathered to the Concert, including us 25 members. I felt Japanese People loved Chopin's works more than any other composer's in the world. There might be something for us to feel deep sympathy with his music.

And last year 2015, I organized the tour to Warsaw with 25 members. It was fourth visit to the Concert. I heartily hope to let Japanese know about Poland ever since I started these activities. Generally speaking, Polish people respect Japanese culture, ability and gentleness. And most of the Polish know the location of Japan in the map. They have Japanese Department in many Universities. On the contrary Japanese hardly know where Poland is. And only Tokyo Foreign Language University has Polish language faculty.

At that time we held a dinner party inviting Warsaw University teachers of Word count 1450/non-fiction/essay 6/6 Japanese Department. There were 7 female teachers and 1 male teacher, Mr. Okazaki. In his speech he introduced those 7 teachers, who had been his students. He had taught Japanese there for 40 years. He had lost his wife 7 years before. Though his children lived near him, he lived alone. He would teach Japanese as long as possible. I reported that the encounter with Mr. Okazaki changed my life. I visited Poland many times with more than 100 people and invited 16 students from Poland to Japan during 20 years.

Now we have 130 members in Nipposalon. Those people are treasures for us. I'm very happy to please many people who visited Poland and many students who came to Japan with scholarship of Nipposalon. I have many friends of both countries and I can lead prosperous life to rediscover the fascination of Japanese culture. I believe this activity is suitable for aged people to be stimulated by young students, to have many chances to meet and talk with various members. As I'm 80 years old, I hope someone will take over this activities and continue. I'll help and support with all my experiences which I have cultivated for more than 20 years.

## 英語の部 詩

深澤佳代子 (神戸クラブ)



## THE LIGHTS OF THE HOPE

6434 lives went out in a moment on January 17th, 1995.

Hanshin Awaji Great Earthquake

Many lights of the Hope went off.

20 years have passed since the big disaster.

My first grandchild was born on January 17th, 2015.

One light of the Hope was lit.

With Hope and Joy

The lives are connected

To the future.

## 日本語の部 ハンフィクション

小山 孝子 (京都クラブ)



## お菓子と私

お菓子と聞いただけで何となく甘い懐かしい思いが甦り、小さい頃に口ずさんだ「お菓子の好きなパリ娘」や「山の奥の谷合にきれいなお菓子の家がありました」など「赤い鳥」に収められている西條八十の何編かの童謡が思い出されます。

日常に欠かせないお料理と違ってお菓子は私に夢や憧れのようなものを感じさせるほのぼのとした対象だったので、ところがある時からお菓子は私にとって特別な出会いをもたらすものになりました。そのお蔭でお菓子作りは勿論、その他の活動においても、充実した日々が開けて今に続いています。お菓子はそのきっかけを作ってくれた「仲立ち」となりました。

今から46年ほど前になりましたか、一切れのホームメイドのケーキを近所の奥様から頂きました。それは既製品よりもこくがあり、しっとりとしていて、自家製とはとても思えない位おいしかったのです。こんなお菓子を教えて下さる先生がおられと聞いて、早速自宅へ伺いお仲間に入れて頂きました。その方は戦後アメリカから帰国されたメリーさんとおっしゃる日系二世で、アメリカでの家庭生活が日本の女性に何か役立つものがあればとお宅でお菓子教室を開いておられました。お菓子だけでなく時にはお料理にもご指導が及び、又日常の生活面においても合理的な示唆の数々を気付かせて頂きました。そしてメリーさんの指導のもと、実際にそれぞれのテーブルでレシピ通りのお菓子を作り、素敵な食器に盛り付けてティータイムを楽しむことができました。又、一年に一度はホテルの広間を使って作品展を開き、お友達をお招きして楽しい時を持つこともありました。

そのような時間を助けたり助けられたり共に過ごす中で、嘘、偽りなく誠意を持ってお付き合い出来る方と知り合う

事が出来たのです。これはお菓子が取り持つご縁としか言いようがありません。

そして何年か通う内に西日本料理学校協会に属するようになり、メリーさんは教員資格認定を取得するように勧めて下さいました。又アンドレルコント氏の研修会、農林省の食品に関する指導、又高速レンジ、電子レンジに関する知識などを教わり、資格認定を頂く事が出来ました。そのお蔭と申しましょうか、ある時は大阪ガスとタイアップして京阪神奈良のガスショップに講師として派遣されることもあり、私は京都のガスショップにクリスマスの用のテーブルデコレーションを担当しました。又メリーさんの「人様に教えることは自分の成長に繋がるのよ」とのお進めでおこがましくも「サロンド プチフル コヤマ」を自宅にオープンし、ご近所の主婦、お友達に簡単なお菓子作りをお教えすることになりました。そしてマシパンの薔薇を作ってケーキを飾ったり、食器をあこれ物色したり、テーブルデコレーションを考えたりと楽しみながらお菓子の世界に浸っていました。お仲間の中には本職のケーキ屋さん、又学校の同窓会の料理、製菓の講師にとチャレンジした方もありました。お菓子に関わった長い年月、私と友との信頼関係は深まって今に至りました。

その後私とは言えば、その道を究めるには家庭の事情もあり、ママの手作りと喜んでくれた娘達のお菓子離れ、又糖類制限の健康状態により、何時からかお菓子作りから遠のく日となってしまいました。今ではショーケースの中のケーキにより往時の楽しかった日々、又何編かの童謡が甦って参ります。私にとってはお菓子との出会いが決して無駄でなく、生活を華やかに彩どってくれたその上に良き友に巡り合えたことを感謝し、このご縁を大切に将来に繋いで行きたいと願っております。

## 日本語の部 俳句

市川 道子 (芦屋クラブ)



いかなごを 炊く家のあり 曲がり角

## 日本語の部 詩

遠藤美与子 (堺東クラブ)



## もう一匹の家族

16年前の初夏のある日、あなたは我が家にやってきました。黒いつぶらな瞳、黒い短い毛、真っ黒なころころしたぬいぐるみの様な軀。

愛猫ミキちゃんと同じ大きさ、家族みんなが笑顔に包まれました。

あっという間に大きくなって太いたくましい脚と黒い精悍な姿、強い力で急回転、太いロープが巻き付いて私の指にヒビが入りました。

暑がりのあなたは水遊びが大好き、大きなタライで毎日行水をしていましたね。

6年前に母が亡くなり、あとを追うように猫のミキちゃんも死にました。

少しずつあなたのアゴにしろいものが生え、飛んだり跳ねたりしなくなりました。犬も人も同じで後ろ脚が弱くなりました。

玄関やベランダの出入りもスロープが必要となりました。

年をとるって悲しいね。

耳が聞こえなくなり、眼も白内障、臉には腫瘍が来ています。

起き上がる時も脚が踏ん張れず、よろよろと滑るあなたの姿に近い将来の自分の姿を重ね合わせています。

白髪もますます増えてきました。

17才のあなたは人間で云えば100才ですものね。

今や人もペットも健康ブーム、昨年から健康フードの鹿肉食べて脚はしっかり、毛は艶々、快食快便で高齢犬とは思えぬあなたの元気さに、人間の私も頑張らねばと手本にしています。

ペットフード会社のホームページに掲載され、あなたは皆が驚く元気な高齢犬、ペットは飼い主に似るらしいので私も100才まで生きられるのかしら。

それとも飼い主がペットに似て100才まで生きるのかしら、ねっ、レオン君!

英語部門審査員：ネイティブ1名、英文学者で京大名誉教授1名、元ITC英語クラブ1名

日本語部門審査員：プロの作家2名、元ITC日本語クラブ1名

# リージョン大会のひとコマ



サインボード



開会式



コ・コーディネーター コーディネーター



ホワイエ



開会式司会者



国際からのお客様



受付



ITC宣誓



派遣員登録受付



会員代表挨拶



VIP接待



審議



インスピレーション



資料販売



資格認証



ページ



インフォメーション



英語スピーチコンテスト



日本語スピーチコンテスト



34 期役員晩餐会



晩餐会就任式



エンターテインメント



35 期会長就任挨拶



晩餐会表彰式



観光・広報



ホスピタリティ



クロージングソート



ウェルカムパーティー



ゲスト

## 第35期日本リージョンテーマ・次期役員・次期指名委員会

### 35期テーマ 「見上げて共に進もう」 “Upwards and Onwards Together”

〔次期役員〕	会 長	中 野 知 子 (No.6 奈 良)
	次 期 会 長	西 村 みつ子 (No.1 名 古 屋)
	第一副会長	佐 野 千賀子 (No.8 東 京)
	第二副会長	松 山 喜代子 (No.3 西宮・クリスタル神戸)
	書 記 会 計	鶴 山 紀 子 (No.2 甲 南) 田 中 英 子 (No.7 鳥 取)

〔次期指名委員会〕	委 員 長	山 崎 眞 知 (No.2 宝 塚)
	委 員	米 門 公 子 (No.4 福山・ひろしま)
	委 員	増 田 泰 子 (No.5 北大阪)
	委 員	家 村 悦 子 (No.6 京 都)
	委 員	山 口 久美子 (No.8 萑 崎)

## 第35回日本リージョン年次大会ご案内

### 大会テーマ 「心はずむ 出会い」 “Inspiring Encounters”

開 催 日 : 2017年6月5日(月)、6日(火)、7日(水)  
場 所 : 奈良ロイヤルホテル



## 訪 問 記

### オランダの風

～ヨーロッパ'92リージョンを訪問して～

イースト神戸クラブ 杉谷 和代



12日	午前	観光
	午後	登録・観光
13日	午前	登録・資格認証・観光
	午後	登録・資格認証・開会式・ディナー
14日	午前	登録・資格認証・ワークショップ登録・デリゲートブリーフィング・ビジネス・全体会・コーヒープレーク・家族観光
	午後	ランチ・ワークショップ(3)コーヒープレーク・スピーチコンテスト審査員ブリーフィング・コンテスト・ディナー
15日	午前	カウンスル1ミーティング・カウンスル役員就任式・ノックアウトゲーム・コーヒープレーク・リージョン役員就任式・閉会・コープレーク・大会評価
16日	終日	フリー(観光)

2016年5月13日～15日までハーグに於いて開かれたヨーロッパ'92リージョン大会に参加しました。

2年に一回の開催ですが、最近では2年をリージョンの一期とするリージョンは珍しくありません。オランダとオーストリアに一つずつあるカウンスルが、交互にホステスカウンスルを担当します。言語はドイツ語圏とオランダ語圏、共に第二外国語の英語を共通言語としています。リージョンの規模は非常に小さく、リージョン大会の参加者も100名に満たず全会員の半数ほどです。しかし毎回彼らの柔軟な取り組みに刺激を受けるのですが、特に今回は日本リージョンの直面する問題を意識しながら、何か新しく学ぶものが見つからないかと意欲的に交流を深め、相互に抱える会員数の減少問題や、それに如何に対応するかなども話す機会に恵まれました。

彼らの素晴らしい点はITCの会員として何をすべきかの認識、学習意識を共有していること、しかも迷いなくそれを実践していることにとっても強い印象を抱きました。ITCの宣誓を思い、まさしく今、お互いの文化を認め合って相互理解を築きITCという国際組織の将来に向けて前進するコミュニケーションの必要性を痛感しました。



### オーストラリア・リージョン大会に参加して

奈良クラブ 中野 知子

小菅あけみDiv.IV副会長を公式訪問者に迎え、広大な土地に散在する9クラブから58名、日本リージョンからの参加者5名、ニュージーランド・リージョン会員も加え60数名の参加者の大会であった。常に親しみとユーモアの中に会は進められ、大会に先立って行われたフォーラムでは、ここ10年あまりで会員が半数以下に減ってしまったオーストラリア・リージョンの現状と共にITC会費の負担の大きさに話が集中していた。分割問題も含めた日本リージョンの現状についての高木リージョン会長報告には深い関心が寄せられた。

初日はランチ、アフタヌーンティーを挟みながら90分8種のワークショップ。全てメンバーがリーダーを務め、それぞれ活発な意見交換の中、行われた。スピーチコンテストは9人のコンテストがヘッドマイクで全身のボディラングエージを使いのびのびと行われた。小菅あけみDiv.IV副会長により穏やかな就任式が執り行われ、大会は終わりを告げた。

“ともこ 楽しんでる？”笑顔に囲まれながら、2016年5月20日からの3日間オーストラリア、サーファーズパラダイス、クラウンパラダイスホテルで開催されたオーストラリア・リージョン大会に参加した。



## カウンスル・クラブのプロジェクト報告 (PREM委員)

ひがし広島  
クラブ主催

### 第5回東広島市内 小・中学生スピーチコンテスト

2016年2月13日 東広島市市民文化センター

リージョンPREM委員長 石崎 郁子 (イースト神戸)

10年振りの大雪で日程が変わったにも拘らず、第5回小・中学生スピーチコンテストの会場は熱気に溢れていました。



ひがし広島クラブが5年前に、このスピーチコンテストを企画し、その後も毎年続けています。現在8人の会員ですべての企画を遂行しています。その他に、東広島市の教育局の方々はジャッジとして支援してくださり、カウンスルNo.4からもジャッジや評価者として参加しました。

東広島市長のごあいさつで、小・中学生スピーチコンテストがはじまり、7人の小学生と8人の中学生が100人以上の聴衆の前で、大きな声で堂々と、それぞれ素晴らしいスピーチを繰り広げ、大きな拍手を受けていました。ご父兄や ITC 会員が毎年楽しみに聞きに来ておられる事に深い感銘を受けました。

カウンスル  
No.7主催

### 第3回 ITCのつどい

2016年3月3日 松江 くにびきメッセ

リージョンPREM委員 田中 和美 (大阪)

蜷漁で有名な宍道湖に繋がる大橋川を渡り、会場のくにびきメッセへ。大きなホールは会員や大勢の一般ゲストの熱気に包まれていました。

稲井幾子 No.7 会長の挨拶の後、島根大学 軽音楽部による若さ溢れるライブに心なみしました。映像により「ITC とは？」の説明の後、メイン

プログラム NPO 法人 水のたね 代表の圓山加代子様のご講演。圓山様は素敵な笑顔で「手話を難しく考えないで手より口や顔の表情、ハートが大切！」と話され、手話を楽しむことの大切さを教えていただきました。会場が一体となり、手話を交えて皆



で歌った「世界に一つの花」がいつまでも心に響いた集いでした。きっと入会に繋がったのではと確信しています。



カウンスル  
No.3主催

### 第5回高校生スピーチコンテスト

2016年3月20日 兵庫県私学会館

リージョンPREM委員 但野 真理子 (阪神)

2016年3月20日、兵庫県私学会館に於いて、カウンスル No.3 主催の高校生スピーチコンテストが開催されました。

第5回を迎え来場者も140名と盛況。後援は兵庫県私学連合会と ITC 日本リージョンでした。

コンテストは英語・日本語各6名、ルールも ITC に準じた形式でした。そのレベルの高さは上質なスピーチの内容であり、その表現力の豊かさ、特に今回は世界でニュースになっている自爆テロの問題をテーマに取り上げた高校生達でした。当日は多くの父兄の姿がありました。素晴らしいニュースとして、数日後開催されたカウンスル No.3 会合 (スピーチコンテスト)

で昨年入会の高校生の父兄が優勝したことです。努力をしてきた No.3 PREM 委員会の喜びは如何ばかりでしょう。



カウンスル  
No.2主催

### 三世代スピーチフェスティバル

2016年3月27日 川西市みつなかホール

リージョンPREM委員 角田 亘子 (御影)

カウンスル No.2 主催の「三世代スピーチフェスティバル」が、少し肌寒い中、行われた。



一般ゲスト、ITC ゲスト計88名の出席者を迎え会場は熱気にあふれていた。来賓紹介の後、東谷中学校校長がコミュニケーション能力の大切さを話され、スピーチが始まった。

中学生の部では4名のスピーカーが自分の夢や大切なものについて発表した。はっきりした口調で自分の主張ができていて感心した。

保護者世代も3名のスピーカーが現代社会の一場面を話され説得力があった。祖父母世代は宝塚クラブの赤松奈緒子さんと神戸クラブの立花真琴さんがスピーチを行った。

後半のエンターテイメントは素晴らしく、ITC 会員の特技の広さを実感した。

## カウンスルNo.3 35周年記念会合

カウンスル No.3 第一副会長 清水 貴子



記念会合では、35周年の節目に、ITC 誕生の歴史を記念いたしまして、トーストマスターズ& ITCのコラボレーションを企画いたしました。「Once we were Brother and Sister」のテーマを掲げ、ボストンからボストントーストマスターズ会長マイケル・マッカーシー氏をプレゼンターに、また2名のゲストスピーカー

もお招きし、バイリンガルプログラムを行いました。元 ITC 会長・マーガレットサザランド・インストラリングオフィサーに役員就任式を行って頂き思い出深いものになりました。

午後のプログラムの幕開けは、日本の伝統的挨拶の口上から始まりました。安永貴駒会員は袴姿で正座し「恐悦至極に存じます・」賑々しく口上を述べました。国際メンバーシップ委員長・高山敦子プログラムリーダーのリードのもと、マイケルマッカーシー氏は「食」のプレゼンを行い、それは恰も NHK スーパープレゼンが目の前で繰り広げられているようでした。

ITC からのプレゼンは小松利香子会員が「花鳥風月と日本の心」と題し日本人の心の神髄に触れ、優美で媚やかな日本を紹介し、その上で伝統芸能である狂言「棒縛り」を高野明子氏、乙野靖子会員、奥澤節子会員が演じ会場は笑いに包まれました。岡本淳子会長はじめ、私たちは日本人のおもてなしの心を大切にしてゲストの皆様をお迎えいたしました。

国際組織の一員であることを再認識すると同時に、海を超えて交流のひと時を持つことができましたことを心より感謝申し上げます。



## 記念例会のご報告

### 鳥取クラブ

### 35周年記念例会

鳥取クラブ 第一副会長 浜村 恵子



鳥取クラブは2016年3月、350回目の例会を迎えました。通常の例会時間内で35年の節目となる内容にしたいと協議し、記念講演を行う事に決定。これをカウンスル No.7 のクラブ間交流プログラムに併用することにしました。

表彰式を行ない、創立当時よりクラブを支え指導して下さっているチャーターメンバー7名にその労をねぎらい、これからもどうぞ宜しくの思いを添えて花束を贈りました。

記念講演は鳥取市在住の重要無形文化財白磁保持者 前田昭博氏。「私と白磁」の演題で白磁との出会い、真っ白な白磁一筋で作陶し「失敗しても諦めずに作り続け今がある。」の言葉に「継続は力なり」の真髓を感じました。

例会にはカウンスル No.7 の他のクラブより約60名の出席があり、会が賑やかで華やき、日頃のコミュニケーションの賜物と心より感謝しました。



### 関西クラブ

### 40周年記念例会

関西クラブ会長 藤川 和江

2016年5月11日(水) ウェスティンホテル大阪ソノラにて、高山敦子国際メンバーシップ委員長、高木清子日本リージョン会長、岡本淳子カウンスル No.3 会長はじめ243名のお客様をお迎えして ITC 関西クラブ40周年記念例会を成功裡に終える事ができました。これも偏にお越し下さいました皆様のお蔭と心より感謝致しております。

会場は各テーブルの祝い花がみごとに歓迎の挨拶をしており、今期のテーマ「華麗に、そして凛として」にぴったりの心癒される盛花でした。

式典では39年・38年在籍会員上島晴美会員・井出智美会員・八木美恵子会員・杉山満佐子会員の表彰があり会場を盛り上げました。また関西クラブ成り立ちの秘話を会員歴39年の上島・井出・八木・の3名と阪神クラブ旭会員で歴史ある成り立ちについてそれぞれが話され、私達が知らなかった数々の事を披露され関心をひく意義のある内容でした。

ホテル自慢のランチは早川住江元日本リージョン会長の乾杯ではじまり見事なお料理に出席者全員が賞賛の声をあげました。

ランチ後のエンターテインメントは元タカラジェンヌの三城礼氏のコンサートで会場が一つになり、素晴らしい歌声に魅了されました。

最後の木村美佐子会員のクロージングソートは心に残るものでした。感動の余韻を残して記念例会は時間どおりに幕をとじました。



## 東山クラブ

# 30周年記念例会

コーディネーター 田嶋 邦子

5月19日、名古屋観光ホテル那古の間にて、高木清子リージョン会長はじめ193名ご出席頂き、東山クラブ30周年記念例会を行いました。

記念例会<テーマ>を結婚30年の記念日に因んで『真珠』とし、23名の会員全員でいろいろ考え、話し合い、時間を掛けて準備いたしました。記念式典では映像で見る「30周年の歩み」と「ITC相聞歌」による自己紹介をしましたが、会員のITCに対する思いを詠んだ短歌に、会場から笑いと拍手を頂き大変嬉しく思いました。

祝宴に続いて、NPO法人 日本ホスピタル・クラウン協会 理事長 大棟耕介氏による講演『クラウン流コミュニケーション』を行いました。講演に先立ち食事中も会場



を回りクラウンパフォーマンスで楽しませて下さり、盛り上がりました。

会員はチャーター会長のテーマ『和の心』のようにひとつになり、協力し合い記念例会を作り上げた喜びを共有しました。笑顔でお帰りのお客様をお見送りした後、全員で一本締めをいたしました。これからも35年・40年に向けて「和の心」を大切に伝えていきたいと思えます。



## 福山クラブ

# 30周年記念例会

福山クラブ第30期会長 米門 公子

2016年6月24日(金)、福山クラブ30周年記念例会を開催致しました。私たちのささやかな記念例会に121名ものお客さまをお迎えできましたこと、会員一同うれしく、感謝の思いでいっぱいでございます。

1年前、準備を始めるに当たり、クラブで決めたのは「手作りの例会で、自分たちの成長ぶりをお客さまに見ていただく」ということ。

そして大胆にも即興スピーチと「大喜利」に挑戦したのです。大喜利には不安が付きまといました。「果たして、素人の私たちの大喜利をお客さまが楽しんでくださるだろうか」。当日、何と



か笑っていただくことができ、ほっと致しました。

記念例会を終えた今、深く実感しておりますのは、ITCというすばらしい組織の中で多くの先輩たちに支えられながら学ぶことができている幸せです。

これからも、地道に学び続けてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



カウンスル  
No.1

## 魅力あるプログラム

カウンスル No.1 第43期プログラム委員長 渡邊 春代



ITC 活動の過渡期を感じられる昨今ですが、私達は ITC の心髄を見失う事無く活動が続けて行きたいものです。その為にも魅力あるプログラムは不可欠です。43期会長テーマ「原点」に沿ってカウンスル No.1 のプログラムテーマを「コミュニケーションのルーツとツール」としました。第1回会合では、日本リージョンが分割という予期せぬ勧告を受けた事から、II部構成としました。I部ではフォーラム「考えよう、これからのITC 日本リージョン」と題し、日本リージョンの行方を、カウンスル No.1 所属クラブ11名の会長がパネリストとなり、熱く意見を述べ合いました。改めて ITC を考える良い機会となりました。

高木会長から力強いメッセージを頂き、勇気百倍。難しい問題でしたが、諦めずに解決を目指すという思いが共有されました。

II部では、コミュニケーションのルーツの一つとして、700年脈々と受け承がれた、愛知県奥三河の「花祭り」を取り上げ、過疎化が進む地域だからこそ祭りというツールでの重要性、地域の結び付き、心を守るコミュニケーションの一つ姿であること映像とナレーションで紹介いたしました。第3回会合では、コミュニケーションの近未来のツールとして人工知能を取り上げ、ディベートと、研究者による講演からコミュニケーションの未来を、ワクワクしながら考察したいと思います。



カウンスル  
No.2

## 盛り上がったカウンスル会合

会長 西本 敬子



今期カウンスル No.2 は「言の葉を紡ぐ」一心の絆を大切に一のテーマの下、心の交流をはかり、自己研鑽してまいりました。

第1回会合では木津川計氏をお招きして「関西三都物語」の講演の後、みんなで各テーブルごとに、大阪・神戸・京都のそれぞれの特徴を述べあい、ことば磨きを行いました。1月には会長会、各クラブの現状報告や悩みを述べあい、これからの No.2 の礎はなにかを親睦を兼ねて語りあいました。

第2回会合では「スピーチコンテスト」で競い合い、3月には「三世代スピーチフェスティバル」で地域との交流をはかり

ました。中学生のことば力、若き父母の言語力に心打られました。

第3回会合では、一年間リージョン分割問題でアンケート結果や各クラブでの語りあいのまとめとして「バズセッション」を行い、個々の考えを述べあい、グループごとにまとめ、発表するという全員参加型の発表の場を設けました。エンターテインメントの澁谷文太郎さんの「歌は世界をめぐる」では心癒されました。みなさまのご協力で、無事終了しましたこと感謝致します。



カウンスル  
No.3

所属クラブ会長・カウンスル役員・委員長会

カウンスル No.3 会長 岡本 淳子

今期のほぼ半ば1月21日、比較的暖かな冬の日、所属クラブ会長・カウンスル役員・委員長会を、神戸に残る最も古い異人館レストラン TOOTH TOOTH Maison15 において開催いたしました。カウンスル役員、各委員長から経過報告と今期後半の予定、計画が述べられました。クラブ会長からは各クラブのプログラムの予定、運営状況について、問題点、少人数クラブの苦勞などを伺い、会長の責務の重さ、指導力の重要性について話が出ました。メール処理に追われる日々を伺い知ることもできました。その後フランス料理を味わい、ビンゴゲームで余興を楽しみ、後半の英気を養う有意義な半日でした。



第2回会合での高校生スピーチ

カウンスル No.3 PREM副委員長 国京 よしみ



第35期カウンスル No.3 主催第5回高校生スピーチコンテストが、春休み期間中の3月20日(日)に兵庫県私学会館に於いて12名の出場者で開催されました。優勝した芦屋学園高等学校の岡部汐央里さん(日本語)、甲南高等学校の安田怜生さん(英語)には、直後の3月30日(水)に神戸ポートピアホテルでのカウンスル No.3 第2回会合でデモンストレーションスピーチを行って頂きました。コンテスト当日よりも更に一段と目を見張るような素晴らしい出来栄で、若い力の成長の目覚ましさに驚かされました。高校生のスピーチはまっすぐで真摯で聴衆の心を捉え、会合会場全体が世代を超えた交流と感動の渦に包まれました。



カウンスル  
No.4

PREM 活動

カウンスル No.4 第二副会長 金子 三屋子

カウンスル No.4 PREM 活動の一環として、クラブ PREM 委員または第二副会長に呼びかけ、意見交換の会を企画しました。2016年2月6日「広報と会員増強の関連性について」と題して顔合わせの会も兼ねて行いました。アドバイザーとしてカウンスル No.4 会長と書記が出席しました。

事前に話し合い事項をメールで知らせ、意見を出して貰いました。9クラブ中、5クラブが出席しました。意見交換の中で、特筆すべき事柄を以下にまとめます。

- 1、地域社会への働きかけについて
  - ① 男女共同参画センターに登録して、イベントの企画に参加している。
  - ② 日本リージョン PREM 委員会発行の三つ折りリーフレットを用いて新入会員獲得に努力している。
  - ③ 日本リージョンホームページにある名刺の様式でクラブ会員の名刺を作成している。
- 2、会員増強のための工夫や努力について
  - ① スピーチコンテストは敷居が高すぎるため、いきなりゲストを呼んでも入会につながらない。
  - ② 参加型のプログラムでゲストに発表する機会を持たせてあげるのはいよい。
  - ③ 例会の雰囲気が沈まないようにする工夫が大切である。ゲストを呼ぶと明るく振る舞えるので、ゲストの参加は重要である。
  - ④ ある会員が ITC の雰囲気や話し方に感銘を受けて、自分が参加しているカルチャー教室の友人をたくさんゲストに招いた。



岡山から九州までの広範囲のカウンスルですが、この企画がクラブ間の理解を深める機会になりました。

カウンスル  
No.5

南大阪クラブ  
新入会員獲得に向けて

南大阪クラブ 田中 トシ



私は4年前に入会、今日まで私の紹介で5名の方が入会くださいました。内3名は、今期です。

スナック・病院・ジャズライブハウス・美容院・お寿司屋さん。出会った場所はいろいろですが、皆さん素晴らしい方ばかりです。素敵な方だな！お友達になりたいな！と思った途端、「実は、私、コミュニケーションの会に行っていて・・・。」と、自然に話し出します。入会のいきさつ、1回目の会合での素敵な思い出、例会の様子、個性豊かな見習いたいと思う方々の事等・・・。ここまで話すと、10分～20分。最後に「会費は？」と聞かれて、即

入会決意です。その後、いつも持ち歩いている南大阪クラブのパンフレットを渡します。

中には、即入会とならない場合も。でも、種を蒔いておけば、いつかは収穫の時が来ます。2名の方は、3年後に、「入ってもいいですか？」と、言ってきてくださいました。

私が、4年前に入会した時、南大阪クラブは13名でした。私の紹介で入って下さった方が、2名紹介して下さったこともあり、今や23名になりました。

ITCは、コミュニケーション技術やリーダーシップスキルが学べ、女性が輝ける素晴らしい会です。ITCの次世代を担う若い方々の育成を目標に、おおいに出かけ、おおいに語り、来期3名増員を目指していきます。

輝かしいITCの未来のために！！

カウンスル  
No.6

第1回会合

カウンスル No.6 会長 堀井 擴子



カウンスル No.6 第1回会合を、2015年10月29日奈良ロイヤルホテルにおいて開催しました。開催地が奈良であることから、日本人の心のふるさと、1,300年前の万葉集から現代に生きる私たちに、何か心の拠りどころとなるメッセージをと思い、講師の先生、プログラム委員会と



相談して、ワークショップ「『万葉集』に視る古代女性の国際性」としました。

古代をしのぼせる緩やかな音楽にのせて、会員6名が、役人と采女の古代衣装を写真のように纏って、問答歌をステージで朗読披露し、会場を万葉の世界へといざないました。

明日香の奈良県立万葉文化館の新進気鋭の若き主任研究員、井上さやか氏は、4,500首以上に及ぶ膨大な数の和歌を集めた万葉集の文化的遺産の価値は計り知れないこと、クイズのような言葉の遣い方、漢字からくる万葉仮名など興味深いお話をして下さいました。大陸からの文化・物流の往来が盛んであったこの時代を背景に、国際社会の中で大和の国を認めさせるため、歴代女帝が目覚ましい活躍をしたことも、歌から読み解き、解説して下さいました。今までの固定観念が解き放され、万葉集を読み返したいと思われた方も多かったことでしょう。

当日、ご参加下さったお客様60名の方々も、12のテーブルにわかれて、ITC会員とご一緒に座り、談笑し、和やかな雰囲気でした。各テーブルでは、テーブルリーダーのリードのもとで、国際化時代の現在、女性の果たす役割等につき、熱心に意見交換が行われました。その後、夫々のテーブルからディスカッションの纏めを発表して、交流によって視野が広がることを実感しました。

カウンスル  
No.7

倉吉クラブ  
会員親睦会

倉吉クラブ 大津 理恵



会員委員会の企画にて、1回目はグラウンドゴルフ発祥の地「湯梨浜町泊」にて、海の見える高台の会場でグラウンドゴルフとバーベキュー。2回目は樹脂粘土によるフラワーブローチ作りと会食（お寿司と鍋料理）。3回目は日帰りバス旅行でホテルランチとクルージングの予定です。

第2回親睦会の作品と会食風景です。樹脂粘土から好きな花をブローチにする楽しさ満開！！

会員親睦会は例会では見られない一面を伺い、会員維持に繋がっています。

米子マンデークラブ  
チャップリンスピーチ・回転寿司・インプロ

米子マンデークラブ 清水 典子

リージョンミニ教育講座から「準備の要らないプログラム」を取り上げ、他クラブから14名のゲストを迎え賑やかに楽しく実施しました。「準備の要らないプログラム」①チャップリンスピーチ、②回転寿司、③インプロを、事前にクラブ例会で実施、3月のクラブ間交流は大成功でした。参加者全員が恥ずかしさや不安を克服し、身体を使って表現してとても楽しい例会でした。



カウンスル  
No.8

第一回会合 プログラム

第一副会長 前川 晃子



舞浜でのリージョン大会・教育セッションを担当されたチャームなアメリカ人歌手、デボラ・グロウさん。この方を再び、第1回カウンスル会合の講師にお招きした。プログラムは、「歌とドラマを通じて学ぶコミュニケーションの心」と題した全員参加型の日英・2言語によるボイストレーニングのワークショップ。準備から実施まで実になが〜い“茨の道”だった。が、当日、オープニングにデボラさんが“Chain of Love”を歌い、彼女の澄んだ歌声が、会場を包んだ瞬間、“茨の道”がプログラム委員長の

心の中で“レッド・カーペット”に！

デボラさんは、こう語る。「自然界で生きとし生けるものは、みんなつながっています。それは、日本語でいうと“絆”のようなもの。“Chain of Love”は、そういうことを歌っています。歌もドラマも人と人、場所と場所、過去と現在、自分の意識と無意識をつなぐアート。コミュニケーションの心とは、繋ぐこと、繋がること、つまり絆をつくること。人が幸福になるための唯一、大切なことは他者とつながりを持つことです。」

ワークショップは、上記のような講義で始まり、ストレッチと発声練習、「小さい秋」（日英）、「エーデルワイス」（英）を全員で歌唱。そのあと、「花火」という母娘が登場するドラマの SCRIPT をグループで言語を選び、読み合わせるという順序で行われた。東京ウィメンズプラザの視聴覚室に他カウンスルからのゲストもたくさんお迎えして、全参加者は95名だった。



## 追悼

心よりご冥福をお祈り申し上げます

鈴木宏子様を悼んで

2016. 3. 14ご逝去

千種クラブ会長 清水 京子

突然の訃報でした。二日前に三月例会を終えたばかりで、耳を疑いどうか嘘であることを願いました。会計として報告をされ、ITC 会則朗読の当番リーダーとして英語版をはっきりとした発音で読まれた声が耳に残っています。

ITC 歴は50年を越え、名古屋クラブの初期より入会、第7期リージョン会長、所有のマンションを提供してリージョン事務所を開設、自ら事務局長としても長く貢献されました。日本での世界大会をめざし、25年前にはカウンスル No.1 初の英語クラブとして千種クラブを設立されました。世界大会では物品販売の責任者として活躍されました。

行動の人であり、合理的な考えのパイオニアと言うべき女性でした。婦人服ブティックの経営の他、結婚相手の紹介を生きがいとして長く携われたことは有名で、昨年までに500組の成婚を世話されたそうです。ITC 以外にも、多くのことにチャレンジされ、ご家族も認める活発で自立した方でした。最期まで誰の世話にもならず見事な生き方をしめされました。大黒柱を失った千種クラブは悲しみでいっぱいですが、鈴木さんの高い志を引き継ぐことで追悼とさせていただきます。

## 編集後記

編集経験のないスタッフが多い集まりとなり、第1回編集会議がリージョン会長をお迎えして始まりました。すぐに心が通じ合い、何年も前からお友達のようなコミュニケーションがとれた会議となりました。会長の方針や思いを直接お聞き出来たので、リージョン誌の編集を迷わず進めることが出来ました。

編集に携わり、リージョンが身近に感じられるようになりました。メールだけのやり取りでしたが、基盤に ITC の仲間という一つの共通の思いがあることで、全国の会員とコミュニケーションがとれていることを実感しました。

最初に「会員の皆様のお役に立って、喜んでいただける会報誌を作ることを目標に掲げましたが、いかがでしたでしょうか？ 少しでもお役に立てたら嬉しいです。リージョン大会で皆さまにお会いした時に「3号を楽しみにしているわ」と言われたのは、私達にとって喜びでした。

原稿の校正を目を真っ赤にして行ったことも、良い思い出になりました。ITC 会員として、少しでも前進できたように思います。皆様もどうぞ挑戦して下さい。

34期 編集者：和田 晴子（岡山） スタッフ：熊代百合子（岡山）

時光 育子（岡山）

田島 久子（安芸）

会長テーマ字：松本 敬（豊中）



# ITC日本リージョン

International Training in Communication

ITC、のぞいてみませんか？何かが見つかります

広がる友情 深まる知識 あなたを変えるきっかけに

ITCはリーダーシップやコミュニケーションの教育・訓練をする非営利組織です

## 日本リージョンウェブサイト（ホームページ）会員ログインの方法

<http://www.itcjr.jp/>

① <http://www.itcjr.jp/> クリック！

② 会員専用ページ ログイン

**ユーザーID** 会員番号（わからない時は、事務局、又はクラブ会計にお聞きください）

**パスワード** 会員の姓のローマ字小文字（例 nihon）

この時パスワード記憶の欄をチェックしておくと次回からすぐログインできます。



<http://powertalkinternational.com/>

ITC日本リージョン会報 Vol.34/No.3  
編集・発行：第34期 ITC日本リージョン  
印刷：上野タイプ印刷(株)

## ITC Pledge

### ITC 宣誓

We, as members of International Training in Communication, hereby pledge to improve our communication and leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world.

我々インターナショナルトレーニング イン コミュニケーションのメンバーは、世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。

2015-2016

### ITC日本リージョン声明文

#### *Mission Statement of Japan Region*

ITC日本リージョンの使命は、ITCの目的とするコミュニケーション技術と組織運営の技術を習得する機会を会員に提供してリーダーシップをそなえた成熟した社会人を養成し社会に貢献することにある。

The mission of ITC Japan Region is to present the members opportunities for quality training in communication and leadership skills which are the purposes of International Training in Communication and benefit the society by providing mature individuals.

